

日露関係史料をめぐる国際研究集会報告

二〇一〇年五月二四日、サンクトペテルブルグ市から、ロシア科学アカデミー人類学民族学博物館（クンストカーメラ）アレクサンドル・シニーツイン上級研究員、ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所ワジム・クリモフ上級研究員、ロシア国立歴史文書館のアレクサンドル・ソコロフ館長、ロシア国立海軍文書館セルゲイ・チェルニャフスキー館長をむかえ、日露関係史料をめぐる国際研究集会を、史料編纂所と日本学士院（国際学士院連合関連）日本関係在外未刊行史料調査事業の一環）の共催により開催した（通算十回目）。

第一報告にたったシニーツイン研究員は、一九世紀初頭日露間の北方紛争においてロシア側が接収した日本品のリストと、現在人類学民族学博物館に残る所蔵品について報告した。日本側が使用した大砲類も分捕られ、ロシア皇帝の裁可を経て、現在サンクトペテルブルグに所在するという。接収された大砲や武具、調度品などが画像で紹介されると、会場にはどよめきわいた。クリモフ研究員の第二報告は、一八六二年にロシアを訪問した竹内使節団の歓迎式典について、ロシア側の史料を駆使して詳細な検討をおこなった。またソコロフ歴史文書館長の第三報告では、同館が所持する儀典事務部の関係史料を駆使し、一八七三年にロシアを訪れた岩倉使節団について報告した。第四報告チェルニャフスキー海軍文書館長は、北清事変における列強海軍の共同作戦に関して発表した。各報告は、いずれもロシア側の一次史料や所蔵品にもとづき、これまで日本の学界には未紹介のものも多く、画像で紹介された品々やロシア史料の読み方、論点をめぐって活発な質疑がおこなわれた。以下、この四報告を掲載する。最後に、研究集会の実施にあたっては、ワジム・クリモフ研究員から多大なるご尽力をたまわったことを付記して謝辞にかえたい。

（プロジェクト代表／保谷 徹）

## ロシア科学アカデミー人類学・民族学博物館（クンストカーメラ）が蒐集したフヴォストフ・ダヴィドフ遠征関係資料について

### アレクサンドル・シニーツイン

ピョートル大帝の名を冠する、科学アカデミー人類学・民族学博物館の日本コレクションには、ニコライ・アレクサンドロヴィチ・フヴォストフとガヴリラ・イヴァノヴィチ・ダヴィドフの遠征時に遡る品物が、相当数あって、展示品の数は、総計数十に及ぶ。ただし、この数字はかなり条件付きのもので、個々の品物がこの遠征時のものに帰属するかどうかについては、多かれ少なかれ想定の域を出ず、博物館の文書にもフ

ヴォストフとダヴィドフの名が記載されているものは何一つない。この不正確さは、歴史的経緯に原因している。最初の日本の物品は、一七世紀の初めから一九世紀の初めにかけての時期、サンクト・ペテルブルグ帝室アカデミーに順次移管され、アカデミー会議の審議後受領され、アカデミー博物館（クンストカーメラ）に保存された。

一八一〇年代より、旧アカデミー博物館（クンストカーメラ）は徐々